

さくら



令和7年9月29日(月)

何かを始めるのに遅いということはない

先週末、朗報がありました。知人女性が、見事、教員採用試験に合格したとのこと。喜びに満ちた彼女の報告を聞きながら、改めて「何かを始めるのに遅いということはない」ということを感じました。

彼女のこれまでの経歴は、教員の世界では異色と言えるかもしれません。大阪の高校を卒業後、東京の大学に進学。教員になりたくて、そこで国語の教員免許を取得しました。しかし、卒業して大阪に帰ってきた彼女を待っていたのは、大学入学時には考えていなかった家業を継がなければならないという道でした。

それでも、国語の先生になるという夢を捨てきれずにいました。そんな思いを抱えながら、二十余年の歳月が流れました。ところが、突如、人生の転機がおとずれます。今年の2月、彼女は家業を良い条件で廃業することができたのです。これを機に、彼女は長年の思いであった教員を志すことを決めました。

そして今年の4月から、彼女は大阪市の学校で臨時教員として勤務しながら、教員採用試験に挑むことにしたのです。大学卒業から長い年月が経過しており、特に筆記テストで合格点を取ることは難しいと感じていました。しかし、彼女は諦めませんでした。過去8年間の教員採用試験の問題をすべて解き、そこから一定の傾向を見つけ出しました。また、国語の基礎・基本を徹底的に学び直しました。このような地道な努力を続けたのです。

面接については、家業で様々な人と関わる仕事をしていた経験があったため、不安は少なかったといいます。さらに、4人の子どものお母さんとしての経験も、自信といかないまでも、自分の強みだと感じていました。

電話口で彼女は晴れやかに言いました。「夢を実現させるのに長いことかかったけど、何かを始めるのに遅いことはないと思った」。

年齢や過去の経歴に関わらず、心に抱く思いを行動に移すことの大切さを、彼女の合格が教えてくれました。志があれば、私たちはいつでも新しい一歩を踏み出すことができるのです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

